

植物活力剤

# ミクロールA

## 公園・競技場の 芝生がはげていませんか？水溜まりができていませんか？

土中の微生物の種類と数がアンバランスだと、土壌菌類の総量が減り、有機物も無駄に消費されて減少します。そのような土は 硬くなります。

土が硬いと 水も肥料も地面の表面近くにとどまり 雨で流れ去ってしまいます。

植物は水や養分を吸収しにくくなるだけでなく、水や養分を求めて根が地表に集まり暑熱の影響を受けやすくなります。

このような土では芝は十分に育つことができず、また地表に水たまりができやすくなります。

そして いったん硬くなった土の中では土壌菌類はなかなか増えることもできません。

**「肥料をまいても効きがよくない」「肥料をまくと徒長するし 害虫も増える」  
「農薬は使いたくない」とき、**

## 天然岩石抽出ミネラル液「ミクロールA」を試しませんか。

全国の農家やゴルフ場で20年以上の実績のあるロングセラーです。

ミクロールA液は、土壌の水持ち水はけを改善して根張りをたすけ、  
また 植物に必要なミネラル分を補給します。

使い方も簡単で、水に薄めてまくだけです。



## ミクロールA液は 植栽、庭木、果樹、野菜、水稻などにも効果をもちます。

植物が本来もつ力を引き出して 耐病性を高め 収量を増やします。



液体 透明 無臭

1ℓ ポリエチ瓶 × 12本入り箱

1本単位のばら売りもできます(小分手数料はかかります)

10ℓ × 1本 ロンテナー(段ボール箱外装つきポリエチレン容器)

20ℓ × 1本 ロンテナー(段ボール箱外装つきポリエチレン容器)

直射日光があたり 熱のこもらない場所で保管してください  
御購入から2年以内にお使いください。

### 用法

500～1000倍に希釈して散布(種まき前、定植前でも有効です)。

- ・農薬との混合は避けてください。農薬散布日とは4日以上の間をあけて散布してください。
- ・基本的には人畜無害ですが 飲用は避けてください。目に入った時はすぐに水で洗い流してください。
- ・希釈が濃すぎると 逆に生長を妨げることがあります。

効きが弱いときは、一度に大量に散布しようとしなくて、1週間以上の間をあけて数回にわけて散布してください。

### 使用例

芝

500倍希釈で 1～10ℓ/㎡(原液に換算すれば2～20cc/㎡)を芝生の不調な部分に上から散布。  
なお 一度にまくのは 土に染み込む分量までにしてください。

樹木

500倍希釈で 2～4ℓ/㎡・年(原液に換算すれば 4～8cc/㎡)を散布。  
年に4回程度に分けて散布すると なおよいでしょう。

野菜

1000倍希釈で 2～4ℓ/㎡(原液に換算すれば 2～4cc/㎡)を散布。  
種まき 定植前がお勧めです。

水稻

原液2ℓ/反(約1000㎡)を田の取水口から少量づつ流し入れる。



## ミクロール A 液の効果

下記のような作用で、植物に抵抗力や生長力を取り戻させます

土中の鉱物の電荷を調整して隙間をあける

有益な土中菌の酵素を活性化させて増やし、菌叢のバランスを回復させる

土の中で菌叢が全体として増殖し、他方では無駄に有機物を消費することなくなる

土壌が団粒化して 水持ちよく 水はけ良い土に変わる

水もちが肥（こえ）もち。水と栄養分の豊かな土に生まれ変わり、植物の根が深くまで伸びてそれらを十分吸収します。  
しかも地表付近に根を伸ばさなくなるので気温の影響も受けにくくなります。



また植物自体に必要なミネラル分を 吸収しやすい形で供給します。

### 芝全体比較



H3. 9月6日

ミクロール A 散布

H4. 1月29日

### 芝根はり比較

H5. 4月17日、5月1日にミクロールA 500倍希釈液  
㎡あたり2ℓ 散布、5月13日採取した根の状態

未使用芝



根の厚みが本液使用の芝に比べて約半分しかなく、葉も見劣りがする。



ミクロール A 使用



上から見てみると、葉の数、色、勢いに差があるのが良く分かる。

根の層の厚みが非常に厚く、葉が立っている。



寒冷地作物が育ちづらい岡山県南部の平地で、庭木として植えた実生（みしょう）のリンゴが実をつけました。  
ミクロールAの散布で根が深く張り、夏の暑さを乗り越えられたからでしょう。

**注意** 植物の生育不良は土壌の性情（固化）だけが原因でないこともあり、「栄養分が偏っている」「そもそも植物の種類と気候があっていない」「土壌が浅すぎる」など様々な理由があります。  
従って、ミクロールAを使えば必ず生長が促進され収量が上るとは言えません。  
実際に試しに使ってみるしかないことが多く、その意味で、最初は1本のばら売りでお試しされることをお勧めいたします。

●カタログ掲載の製品につきましては予告なく仕様・規格及び価格の変更をする場合があります。

■販売

■製造者 **株式会社川田研究所**  
茨城県つくば市柳橋 122-3